

考える委員会 始動 !!

平成14年度「気象予報士会の今後を考える委員会」が、9月28日よいよ活動を開始した。この委員会は、閉塞状態にある気象予報士会の現状を打破し、将来を展望あるものとするため、昨年度に引き続き開催されるもの。

昨年度、同委員会は、予報士会の進むべき方向性（会則第2条2項に謳う事業の推進を積極的に図りつつ、「趣味の会」としての事業も主要事業の一環として推進する。）を提言して「中間答申」とした。今年度はこれを受けて、予報士会の活動のあり方や組織のあり方などについて具体策を講じるための検討に入り、今年度末には現実的な提言を行う予定だ。

委員は、堀江謙（埼玉）、久保田効（千葉）、加納良真（東京）、渡辺保之（東京）、佐藤元（神奈川）、野尻英一（神奈川）、林良盛（愛知）、岩崎充良（大阪）、藤林敏史（兵庫）、岡田暢夫（愛媛）、濱田和雄（愛媛）、園村伸（宮崎）の各氏（計12名）。昨年度の委員会が一旦解散したため公募などによる再編成となったが、論客、学術派、実務派など多士済済、組織変革の熱意溢れる頼もしい顔ぶれとなった。

第1回目の会合は、霞ヶ関近くの日比谷ダイビルで行われ、石井会長ほか幹事ら5名と、改めて委嘱された委員のうち7名が出席して開かれた。冒頭、委嘱状が会長から各委員に手渡され、席上、会長が「設立以来7年、気象予報士会は年々会員が増え、それぞれに特色ある地方組織の活動も活発となってきた。頼もしい限りだが、会がこれからさらに大きく活発になるにつれ今以上に様々な問題に直面し、その対応に迫られることが予想される。そこで会としての将来を見据え

ながら、会のあるべき姿や組織構造など、様々な面から意見を出し合い、これからの会の屋台骨となるような提案を出していただきたいと思う。皆が信頼できるしっかりとした会としての背骨さえできていれば各々の活動は更に自由になると思う。」と挨拶。この委員会の意義、重要性、会としての期待が述べられた。引き続き各委員の自己紹介が行われた後、同委員会担当の白石幹事から昨年度の委員会の経過、今年度の諮問内容についての説明がなされ、その後、委員の役員を選出が行われた。役員には、委員長に佐藤元氏、副委員長（委員長補佐）に久保田功、野尻英一、渡辺保之、堀江謙の各氏が選出された。



委員と幹事

会合の後半は、佐藤委員長を中心にいよいよ委員会が始動。「主要検討事項の確認」、「年間検討大綱の作成」の他、委員会の今後の運営要領、日程などについて活発に話し合われ、好スタート。各委員の旺盛な意欲も窺われ、活躍が期待されることとなった。

この委員会は今後とも東京で開かれるが、一方で委員会専用のML「考える委員会」が運営されることとなった。全員が東京に毎回集合できないこともあり、少ない予算で実りある成果を得るための工夫だ。このMLでの委員のやりとりは公開を原則としており、一般のML会員も事務センターに申し込むことにより閲覧できる。ただし、閲覧者はこのMLでは直接は発言できない。しかし、気象予報士ML「yoho-forum 1」に一般会員から会の今後に関する意見や提案が投稿されれば、それを委員会で汲み上げることにしているので、一般の会員にもそういう形で大いに参加してもらいたいところだ。（白石晶二 組織担当幹事）



挨拶する石井会長

熱気の埼玉支部設立総会

古谷敏之（埼玉支部事務局 総務担当）

去る8月31日(土)に気象予報士会埼玉支部の設立総会を開催し、各地の先輩支部への仲間入りをさせていただくことになりました。当日は、気象庁産業気象課の横手課長補佐、同課の板東係長、気象予報士会の石井会長をご来賓に、埼玉県を中心に東京、千葉、神奈川、栃木、群馬、宮城から50名の会員が集い、会則や活動方針、事業案などを可決承認し支部としての活動をスタートさせました。また、気象庁予報部の岡田さんによる「防災気象情報とその利用」をテーマとする記念講演も実施し、土壌雨量指数を始めとする防災に関する最新の話題に触れることができました。総会に引き続いて行われた懇親会では、今後の支部活動についての熱い議論や多くのアイデアが次々に飛び出し、当会にける会員の期待の大きさを示していました。



熱気の埼玉支部設立総会

埼玉支部は「議論よりも実行」「開かれた会」「法人化を目指す」という基本方針で活動を繰り返し広げていきます。「議論より実行」というのは、説明は不要と思いますが、実行（＝成果）第一主義で、何事にも臆せず果敢に取り組むということです。「開かれた会」というのは、会を気象予報士のみでなく、気象に関心のある一般の人や団体にも間口を広げるとともに、地域や市民と融合した活動を行うというものです。最後に「法人化を目指す」というのは、商取引、委託研究、許認可事業などを個人レベルではなく法人として行うために必要だからです。

埼玉支部は「埼玉」を名称としていますが、県内活動にとどまる気持ちはありません。志を同じくする方であれば、どなたでも会員になることができますので、ぜひ仲間

に入って共に活動下さいませようお願いいたします。

埼玉支部のホームページは、
<http://www5e.biglobe.ne.jp/~o10kiya/> です。

新潟支部設立に向けて

～新潟地方気象台見学と懇親会の開催～

諸岡雅美（新潟）

10月19日(土)、新潟市内で「第2回 新潟で飲みませんか+新潟地方気象台見学」が行われました。

見学会には11名が参加。まずは予報課丸山さんの案内で施設を見学。屋上の風向風速計、露場と積雪計や雨量計、標準木などを解説していただきました。屋内では現業室で震度計、ひまわり画像、弥彦山に設置されているレーダーの画像などの説明を受けました。

その後会議室で10日出された寒候期予報について、長期予報担当の本間予報官から解説をいただきました。予報のポイントとしてエルニーニョが続くこと、対流圏の温度の上昇傾向、近年のシベリア高気圧やアリューシャン低気圧の長期的変動などを示していただき、また、今後3ヵ月予報にとり入れられる力学的手法についてもご説明いただきました。引き続き後藤気象情報官から、気象情報官の役割、気象情報の提供についての仕組みなどの説明がありました。気象業務に携っていない予報士にとってはこのような予報の現場を見る機会はない



露場で積雪計の説明を受ける参加者

かながなく、また長期予報を行っている方から手法を直接聞くことができ、たいへん貴重な見学会でした。

懇親会は合計17名の参加。気象台から次長の小林さんを含め8名も参加していただき、また気象協会新潟支店の柳さんも参加。まずは自己紹介を行い、名刺交換や歓談となりました。新潟は、6月のMLで「新潟に支部があれば」という話題から始まり飲コミュニケーションで顔合わせや見学会、交流ができました。今後さらに継続した活動を目指し、地方活動組織（支部）の発足に向けた検討をしていく方向性を説明して、懇親会の席で次回の開催について参加された方から了解をいただきました。また、私だけでは力不足の点もあり、これまで色々アドバイスをいただいた新潟市の内藤雅孝さん、豊栄市の高橋理貞さんにも携っていただき、新潟地方気象台、日本気象協会新潟支店にもご協力いただけることになりました。

ようやく動き出したところですが、各地の活動も参考にしながら、新潟の地域・季節・気象をふまえた活動の場が発足するよう進めていければと考えています。今後の新潟にご注目下さい。

「お天気の不思議展」

小川雅仁（神奈川）



8月10日から9月1日までの土日、横浜市鶴見区にある環境エネルギー館（通称ワンダーシップ）の夏休み企画「お天気の不思議展」の解説スタッフを、神奈川気象予報士会の佐藤直行さん、織田剛さん、真鍋千秋さん、私（小川）の4名が2日間ずつ担当しました。（8月23、24日は講演のため石井会長も見えました）

見晴らしの良いガラス張りの廊下が会場で、そこに気象に関するパネル（広告代理店の方が製作）を展示し、訪れた方々にパネルの解説をしたり質問に答えるといったことをしましたが、特に子供達には質問事項を用紙に書いてもらい、私達はその用紙に答えを書き、ボードに掲示しました。

子供達の質問で多かったのは、「なぜ空は青いの？」「雲のでき方や種類は？」「虹の原理」「雷はなぜ起きるの？」でした。事前にある程度予習をし、参考書も何冊か用意していきましたが、子供達にわかりやすく説明するのは結構難しく、また楽しくもありました。

「羽田空港「未来の空」展について

佐々木恒（東京）

今年の夏、8月1日から8月11日まで、羽田空港ビッグバード中央ショッピングモール・ガレリア6階ギャラクシーホールにおいて、民間航空再開50周年を記念して「未来の空展（主催：日本空港ビルディング株式会社）」が開催され、気象予報士会から私を含めた3名の気象予報士（渡辺保之さん、上妻美砂恵さん）が「お天気質問コーナー」を担当しましたので、そのときの状況を簡単にご報告いたします。

このイベントは、民間航空再開50周年に当たる今年、航空や宇宙技術、天気や星座等を含めた「空」と密接な関係にある空港において企画展を実施することにより、さまざまな分野での「空」についての理解を深めてもらおうと企画されたものです。

イベント期間中は夏休み期間中でもあったため、小学生を中心に、帰省や旅行に向かう家族連れや空港関係者などで賑わい、延べ約3万人が会場を訪れました。

気象関係の展示コーナーでは、気象観測機器の実物展示や十種雲形をイラスト化したカラー・パネル展示の他、大型扇風機による強風体験やうちわで台風の風速にチャレンジするコーナー、過去の天気図の検索などができるパソコンも置かれ、自分の生まれた日の天気も調べられるようになっていました。

そして本題の「お天気質問コーナー」では、天気

また、熱心にパネルに見入ったり、自分の書いた質問用紙に私たちの答えが書かれているのを確かめて喜んでいる子供達の姿に、気象に興味を持ち始めた頃の自分を重ねて、ちょっと懐かしい気分にもなりました。

夏休み中のためエネルギー館への来訪者はかなり多かったのですが、「お天気展」に立ち寄る人は意外に少なくちょっと残念でした。まだまだ気象・天気というのは一般の関心が薄いのでしょうか。「お天気に興味を持ってくれる人がもっともっと増えるといいな」というのが実感です。

他の地域に比べてまだまだ対外活動が少ない神奈川予報士会ですが、これからもいろいろなイベントに積極的に参加し、気象・天気のおもしろさを広めたり、地域の皆様のお役に立てたらと思っています。



筆者の小川雅仁さん

関する質問に対して解答するだけでなく、簡単な実験装置で雪の結晶を作って、雪結晶の成長の様子を見せたり、炭酸ガスを噴霧することによって雪を降らせて見せたりと、気象関係の展示コーナー全体は体験的な場になっていました。なお、この実験装置は北海道旭川西高等学校の平松和彦先生考案の「ペットボトルを使った人工雪発生装置」で、子供たちでも容易に入手できる素材を使用して、雪の結晶の成長を常温の室内で観察できるもので、装置考案とその普及活動により2002年度日本気象学会奨励賞を受賞しています。

天気に関する質問は、質問用紙に質問とその答えを記入してパネルに貼り出しましたが、その数は100を超え、貼り出された質問用紙を熱心に読んだり、ノートに取ったりする子供もいて、日頃から天気についても不思議に思っている子供が多いことに安心というところでしょうか。また、十種雲形をイラスト化したカラー・パネルを一生懸命ノートに取る人も（これは子供だけでなく大人も）いましたので、雪結晶の実験の合間にパネルの前で説明に立つこともありました。

ある子供に「何で天気っていうの？」と聞かれて、「天の気分だからだよ！」と答えて、周囲の大人から大受けしたのはご愛敬だったのでしょうか？

最後に、このようなイベントに気象予報士会として積極的に関わっていくことは、一般への気象知識の啓発にもつながるだけでなく、また気象予報士や気象予報士会の知名度と正しい理解を深めることにもつながるのではないかと強く感じました。

地球規模的な二酸化炭素濃度の時系列特性

宇都宮大学 工学部建設工学科 長谷部正彦教授

この技術紹介記事は、2002年9月1日に栃木県気象予報士会例会において講演された、宇都宮大学長谷部教授の講演要旨および論文を基に長谷部教授の承諾を得て、大門禎広（栃木）さんがまとめられたものです。

(1) はじめに

産業革命以後の産業活動の発展に伴う化石燃料の消費や森林破壊などにより二酸化炭素は増加し、近年二酸化炭素の増加による地球温暖化が問題となってきている。IPCCの報告によると1970年以降は1.5ppm/年、1990年代以降は0.9～2.8ppm/年の増加となっている。二酸化炭素は量が多いだけでなく大気中の寿命も長いことため温室効果が大きく、温暖化への寄与率は二酸化炭素64%、メタン19%、フロン10%、亜酸化窒素6%と続き、二酸化炭素の寄与率が一番高くなっている。また、世界の二酸化炭素排出量を見るとアメリカ(25%)、中国(12%)、旧ソ連(11%)、日本(5.7%)、ドイツ(4.2%)、イギリス(2.6%)と続き日本も上位に入っている。

二酸化炭素の大気中の濃度変化を把握することは、将来の気候変動を予測し、適切な対策を講ずる上で特に重要である。本研究では二酸化炭素の時系列解析から特性を把握し、年間を通じての月単位での二酸化炭素の変動、さらに周期的要因の有無などについて把握する。

(2) 二酸化炭素濃度変化

二酸化炭素濃度の濃度は、北半球では二酸化炭素の濃度の季節変動があるが、南に行くにしたがって変動が小さくなる傾向がある。これは、北半球は陸地が多く、植物の光合成の影響と人間の社会活動により、二酸化炭素を多く排出する先進国が多いことが要因と考えられる。また、南半球ではほとんどが海洋であるため変動が小さいと考えられる(図1)。

(3) 相関行列

相関分析は各変量間の相関係数を成分とする正方行列により分析するもので、この場合は各観測所の二酸化炭素濃度間の相関係数を求めたものである。これによると、月ごとの相関行列では、ヨーロッパ付近は他の観測地点との相関が弱く、特に2月は弱くなっている。また、年での相関係数から北半球と南半球での二酸化炭素の変動の違いが明らかになった。

(4) 時系列解析

時系列解析とは、時系列に含まれる統計的性質を検討し、この統計的性質を利用して欠測値や将来の予測をするものである。一般に時系列は、傾向成分、周期成分、変動成分から構成され、ある時系列を X_t とすれば、

$$X_t = T_t + P_t + y_t$$

となる。ここに T_t : 傾向成分、 P_t : 周期成分、 y_t : 確率変動成分である。

傾向成分 (T_t) と周期成分 (P_t) は決定論的成分

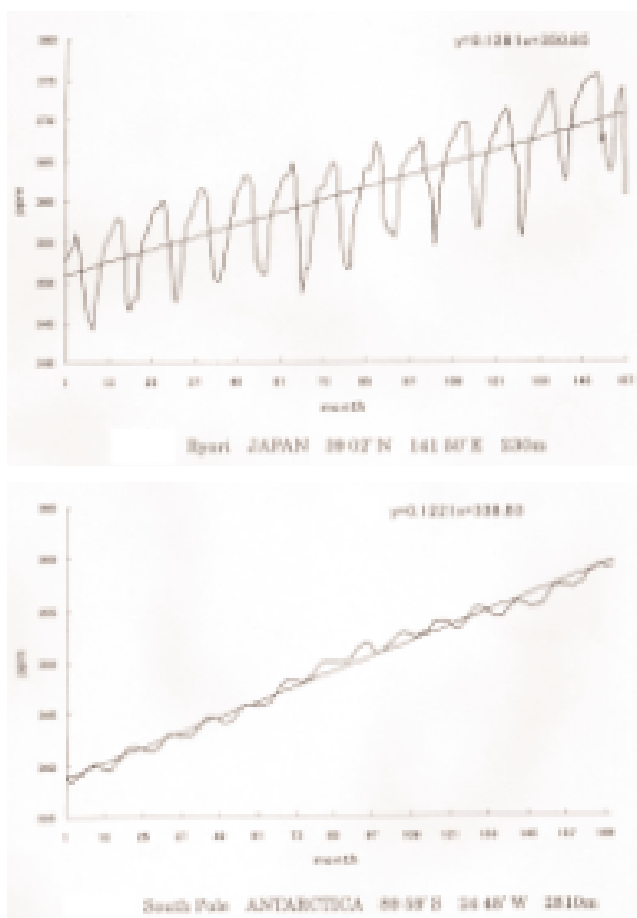


図1 北半球と南半球の二酸化炭素濃度と傾向成分(綾里、南極点)

である。一方、確率変動成分 (y_t) は非決定論的成分で、この成分の時系列は確率論的に扱われる。決定論的成分は、最小二乗法やフーリエ解析などによりこの成分を決定することができる。このようにして決定論的成分が推定されると、原時系列からこの2成分を取り除くことによって非決定論的成分である確率変動成分が決定される。この成分の時系列を、確率論的に表現した定常(非定常)確率過程論で解析することにより時系列の確率的な変動模様が把握できる。

傾向成分

両半球の各観測地点の観測値から傾きから、CO₂濃度の増加量を求めるとほぼ1.5ppmであり、二酸化炭素の年平均の増加量が推定できる(図1の直線部分)。

周期成分

原系列で自己相関係数を求めると、北半球は12ヶ月周期、南半球は緩やかに相関が弱くなっているのがわかる。また、原系列から傾向成分を除いたもので自己相関係数を求めてみると、北半球では12ヶ月周期があることがわかる。しかし、南半球での周期成分は弱い(図2)。

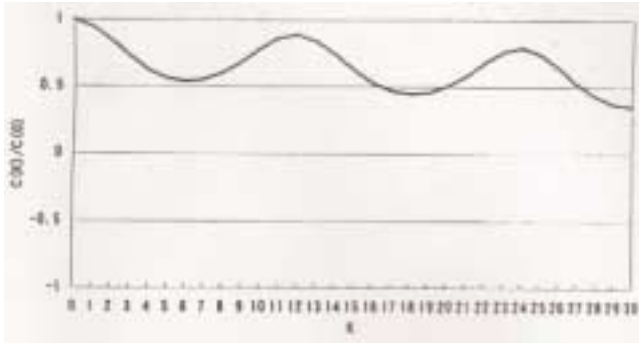


図2 二酸化炭素濃度自己相関係数

その結果、実際に周期成分を求め原系列から傾向成分を引いたもので比べると、北半球ではフーリエ級数でよく表されているが、南半球ではあまりよく表されていないことが分かる。

確率変動成分

原系列から傾向成分と周期成分を引いて確率変動成分を決定する。また、この確率変動成分の自己相関係数を求めることによって定常確率過程か非定常過程であるかを決定する。

この自己相関を求めると、チモネ山（イタリア）だけは自己相関が0付近であり定常過程であったが、その他の観測点は自己相関が0付近ではなく徐々に減少していき、ある程度減少すると増加する傾向であり非定常確率過程であった。

(5) 結論

北半球と南半球では、二酸化炭素濃度の変動が異なる。傾向成分はほぼ同じだが、周期成分に北半球と南半球の違いが現れる。

チモネ山（イタリア）の二酸化炭素濃度は定常確率過程であり、その他の地域は非定常確率過程であった。非定常確率過程は、規則成分の割合から、1階差（1階の微分式）をとることで定常化できる。

(6) 今後の課題

今回の研究では、現象理解にとどまっているため、二酸化炭素濃度の時系列に具体的に何が影響しているかは分からなかった。今後は、物理的要因及び発生原因などの検討する必要がある。

【質疑応答から】

会場では各観測地点の地球規模的な二酸化炭素濃度の変化のグラフの紹介があり、その中で「筑波のデータ（図3）は他の地点と異なる傾向であった」という質問に対しては、「東京（二酸化炭素の排出源）近郊に位置していることもあり、季節により風向きが違ふことや陸地での観測で、かつ周期的な日単位での社会活動が影響しているのでは」という回答であったが、今後の研究課題とされた。

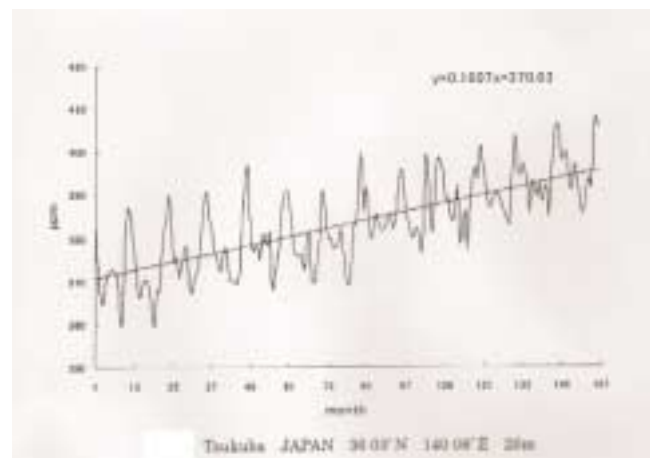


図3 二酸化炭素濃度（つくば）

参考文献：「M.Hasebe, R.Taketaka and H.Inoue ; Chronological characteristics of the atmosphere concentration of carbon dioxide at global scale by using time series analysis, Water Resources and Environment Research, Vol 1, pp.240-244, ICWRER 2002

会報「てんきすと」投稿規定

1. 投稿から掲載までの流れ

・会員の皆様は投稿された原稿は、以下のような手順を経て掲載されます。

「投稿」「受付」「査読」「修正依頼」「著者の修正」「再投稿」「受理」「編集」「掲載」

2. 査読について

・応募された原稿は、幹事会にてその内容を審査します。
・原稿内容によっては、幹事会以外にも査読をお願いする場合があります。

3. 原稿分量について

・原則として下記範囲内とします。これを超える場合には、著者に原稿分量の調整を依頼することがあります。
・文字数 1,000字以内 ・図表 2枚以内
・画像データ 合計サイズ 256kB以内

4. 原稿の修正について

・ご応募いただいた原稿に内容変更の必要性が生じた場合には、（掲載を前提に）著者に原稿修正の依頼をすることがあります。ただし、最終的な掲載・不掲載の判断あるいは、掲載する場合の掲載号については、原稿修正完

了後、幹事会にて最終決定するものとします。

・また、幹事会にて、文章の内容を変えない範囲で若干の添削（誤字・脱字修正、表記・文体統一など）をすることがあります。この際には、原則として著者に連絡することはありません。

5. 掲載の決定と通知

・著者への連絡は「受理」段階で行います。この際「てんきすと掲載原稿とすること」のみを著者に連絡します。
・応募多数もしくはその他の理由により、掲載号が変更になることがあります。

6. 応募原稿の注意事項

・原稿はワープロ化された電子媒体によるご応募を推奨しますが、手書きでも構いません。手書きの場合には、文字をはっきりと読みやすく書いて下さい。
・図表に関しても、EXCEL、LOTUSなどの表計算ソフトで電子化されたものを推奨します。
・制作コスト削減のため、手書きグラフの場合には、方眼紙上に定期的に清書して頂き、グラフ上の各ポイントが明確に読みとれるようにして下さい。
・応募された原稿・写真等に関しては、原則としてお返ししません。

平成11年の福岡や東京で起こった地下浸水の痛ましい災害を覚えておられる方も多いと思います。都市の多くはアスファルトとコンクリートで固められており、ひとたび豪雨となれば行き場のない雨水は下水に流れ込み、その排水能力を超えると地下や低地が浸水します。下水処理問題は、私達予報士にとっても、関心度の高い問題の1つです。

9月20日(金)に実施された施設見学会で、大阪市の浸水災害への取り組みを見学しましたので、そのあらましを報告いたします。

大阪は土砂などの堆積によってできた沖積平野であるため、ほとんどが低地です。また、北区の梅田を始め、中央区の難波などに日本有数の地下街を持ち、雨水などによる浸水には弱い都市です。大阪市では、これらの浸水災害に備えて、下水道の整備と共に雨水による浸水対策に取り組んでいます。

その1つが、雨水の排水を細かに行うための排水ポンプ場の増設や10年に1回の集中豪雨に備え、地下に排水を一時溜め込む大放水路の施設工事です。大放水路には「淀大放水路」と既に完成し稼働している「なにわ大放水路」などがあり、淀大放水路は最大内径7.5m・総延長22.5kmにもおよぶ大規模な下水幹線です。

2つめはこれらの排水施設を効果的に活用するための情報システムの整備です。

今回、私達は大阪市都市環境局災害対策室様のご厚意により、大阪南港の大阪ワールドトレードセンタービル(WTC大阪)34階にある災害対策室で実際の情報システムと制御室を見学させていただきました。まず、部屋に案内されて目についたのは会議テーブルの正面に据えられた6面マルチパネルです。テーブルにはパソコンの接続端子があり、正面パネル以外にも個々に必要な情報が確認できるようになっています。

また、情報システムですが、気象庁などからの気象情報はもちろん、大阪市が独自で運用している気象レーダー(港区弁天町のオーク1番街ビル屋上に設置)と各排水場の雨量計により補正された2.5分毎の降雨情報、さらには各排水施設のポンプの状況や流量予測などが表示でき、局地的な豪雨にも細かに対応ができるようになっています。私個人の感想ですが、大阪市内でこのような対策が取られていたことは驚きと共に大変勉強になりました。

最後になりますが、私達の質問にも真摯に答えてくださった職員の松本様、小東様に謝辞を述べると共に、更なる災害対策の充実を願って終わりたいと思います。

MLの話題から・・・

星になった気象予報士

メーリングリストでも話題となり、ご存じの方も多いかと思いますが、小惑星27791番の名称が、本会の会員である久保田麻三留(神奈川)さんのお名前を取って、「Masaru」と名付けられました。

この小惑星は比較的真円に近い軌道を回っていて、2002年10月現在、太陽から2.1天文単位(1天文単位=太陽~地球間の距離)ほど離れた位置にあり、しし座の後ろ足に当たるところに見えています(しし座の2等星デネボラが目印)。推定直径は7kmで地球接近時の光度は15.7~16.4等級、接近時以外はおおむね18等級程度となり、直接見るには口径60cm級の天体望遠鏡が必要になります。こんなに小さな星でも発見されて、名前まで付けられるのですから、すごいですね。

では、こんなに小さな星を発見したのも久保田さんかということ、そうではありません。1993年に八ヶ岳南麓天文台の串田嘉男さんが発見、元五島プラネタリウム解説員の村松修さんが検出した小惑星に、齊藤美和さんが命名を提案し、久保田さんの名前がつきました。このように発見者が命名権をゆずって名前がつくことはめずらしくはありません。

今回は久保田さんの天気予報を通しての科学と天文学普及の功績が称えられて「Masaru」と名付けられました。

現在日本に関連する名前がついている小惑星は約900~1000個で、毎年100個程度の新たな日本人命名の小惑星が輝いているようです。

久保田麻三留さんよりひと言

小惑星27791は、眼視で見るとは口径50~60cm程度の天体望遠鏡が必要ですが、最近のデジタル天文学の発達で、冷却CCDカメラを使えば、口径25~30センチ級の望遠鏡で検出可能です。

五島プラネタリウムの星の会や、閉館前後の活動、さらにその流れを引き継ぐ「渋谷区五島プラネタリウム天文資料」



小惑星「masaru」の想像図

でのお手伝いなどを、皆さんに評価していただいたことが、思いがけず、天文ファンとしては最高の夢の実現になりました。

自宅には25センチがありますが、撮像装置などを整備して、自分で直接その輝きを捉まえてやろうと思っています。

*この記事は(株)アストロアーツの月刊「星ナビ」編集部の方の協力により作成しました。

＝ 地方組織活動の現状 ＝

本会の地方組織は全国各地で自主的に設立され、活発な活動が行われています。その情報は本誌やML、ニュースレターを通して案内されていますが、個別で紹介されるため、まとめて確認できる機会はあまりありませんでした。そこで、その地方組織活動の現状をまとめ、問題点について改めて考えてみることにしました。下表に地方組織活動の現状を示します。現在、休止中や設立準備中のものを含め、全国で18の地方組織が存在しています。これらは北海道から沖縄県まで全国的に展開されています。関東地方を例に挙げると、ほぼ都県単位に地方組織が存在していますが、東北、北陸地方等では引き続き空白域となっているのが現状です。

加入資格をみると、気象予報士会会員、気象予報士、特に定めていないなど地方組織によって様々です。また、活動資金は、その都度実費を参加者から徴収するのが一般的ですが、懇親会費の余剰金が貴重な財源のひとつになっていることもうかがえます。

幹事会では、地方組織活動のより一層の発展、活発化を図るため今後も支援していきます。特に空白域の解消、具体的な支援策のあり方については十分検討を重ねていきますので、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。（岡村和賛 地方担当幹事）

表 気象予報士会地方組織活動の現状

2002年10月20日現在

名称	北海道気象予報士会 (MLH=ML北海道)	青森県気象予報士会	栃木県気象予報士会	茨城県気象予報士会	気象予報士会埼玉支部	気象予報士会東京支部
対象地域	北海道（道外在住者8名）	青森県およびその近隣	栃木県	茨城県	埼玉県およびその近隣	特になし
加入資格	(1)	(2)	特になし	特になし	気象予報士会会員(6)	気象予報士会会員
主な活動内容	・天気図検討会 ・講演会 ・勉強会 ・施設見学会 ・懇親会 ・予報士試験問題検討会 ・子供向け科学実験室	・勉強会 ・施設見学会 ・総会 ・幹事会 ・懇親会	・天気図検討会 ・講演会 ・懇親会	・講演会 ・勉強会 ・見学会 ・懇親会 (5)	・天気図検討会 ・講演会 ・見学会 ・総会 ・懇親会 (7)	・天気図検討会 ・講演会 ・勉強会 ・見学会 ・懇親会
活動周期	1カ月に1回	毎月第2日曜日(3)	2カ月に1回(4)	3-4カ月に1回の予定	1カ月に1回	1カ月に1回
資金調達方法	その都度実費を徴収	会費を一括徴収	その都度実費を徴収	その都度実費を徴収	その都度実費を徴収 会費を一括徴収 懇親会費の余剰金	その都度実費を徴収 懇親会費の余剰金
非メール会員への連絡方法	郵送(世話人がハガキを準備)	郵送(世話人がハガキを準備)	郵送(世話人がハガキを準備)	郵送(世話人がハガキを準備)	なし	郵送(世話人がハガキを準備)
ホームページ	http://ha4.seikyoku.ne.jp/home/mura/yoho/mlh/index.html	なし	なし	なし	http://www5e.biglobe.ne.jp/~o10k/ya/	http://ueno.cool.ne.jp/weather/home.htm
メーリングリスト	あり	なし	あり	あり	あり	あり
世話人/幹事(敬称略)	世話人: 波松章勝、金村直俊、中井太郎	会長: 工藤 淳 幹事: 金田浩治、児玉安正、藤村博明、岡前憲秀	渡辺茂男、大門禎広	太田 宏、本田英司、内山 達	代表世話人: 東 修造 事務局: 谷合敏之 会計: 室 重矩	今村明男、太田 宏、加藤匡也、川村昌廣、竹田康生、武橋憲明、前原勝彦、野瀬英洋、前田陽男、渡辺保之
問い合わせ先	波松章勝: an@mb.infosnow.ne.jp 金村直俊: VYN01261@nifty.ne.jp 中井太郎: taro@env.agr.hokudai.ac.jp	事務局: (有)アップルウェザー 内 TEL:017-765-3241	大門禎広: daimon@y.email.ne.jp	太田宏: ootasan@msa.biglobe.ne.jp 内山達: atsuchi.uchiyama@nifty.com	事務局: 吉谷敏之 代表世話人: 東 修造	渡辺保之: caq00545@nifty.ne.jp
会員登録者数	31名	30名	10名未満	6名	53名	30-40名
例会平均参加者数	10名未満	10名未満	10名未満	10名未満	10名未満	10名未満
設立	1997年5月	2000年6月	2000年6月	2001年9月	2002年8月	1997年8月

名称	神奈川気象予報士会*	千葉県気象予報士会	静岡県顔合わせ会	気象予報士会東海支部	関西気象予報士会	気象予報士会広島県支部
対象地域	特になし	特になし	特になし	愛知、岐阜、三重県	関西地方	広島県
加入資格	特になし	特になし	気象予報士会会員	気象予報士および会員の紹介者	気象予報士会会員	気象予報士会会員
主な活動内容	・講演会 ・勉強会 ・見学会 ・気象関連写真コンテスト ・懇親会	・講演会 ・勉強会 ・施設見学会	・懇親会	・天気図検討会 ・講演会 ・勉強会 ・施設見学会 ・懇親会	・天気図検討会 ・講演会 ・勉強会 ・施設見学会 ・総会 ・懇親会 ・その他(8)	・勉強会 ・施設見学会 ・総会 ・懇親会
活動周期	3-4カ月に1回の予定	3-4カ月に1回の予定	半年に1回以下	基本的に毎月第4土曜日	2カ月に1回程度	3-4カ月に1回
資金調達方法	基本的には徴収しないが、必要とあれば状況に応じて徴収	その都度実費を徴収	その都度実費を徴収	その都度実費を徴収	その都度実費を徴収	基本的には徴収しないが、必要とあれば状況に応じて徴収
非メール会員への連絡方法	なし	郵送(世話人がハガキを準備)	なし	郵送(世話人がハガキを準備)	郵送(非メール会員がハガキを準備)	郵送(世話人がハガキを準備) 電話、FAX
ホームページ	なし	なし	なし	http://homepage3.nifty.com/snakahara/	http://homepage2.nifty.com/yohokansai/	なし
メーリングリスト	なし	あり	あり	あり	あり	あり
世話人/幹事(敬称略)	持ち回り制	遊佐昌樹、藤堂憲幸、工藤淳也、鈴木尚子、小泉浩彦、宇井保弘、清水教子、若浦雅嗣	持ち回り制	植松久芳、林良盛、伊藤 忠、中原定雄	会長: 富田正夫 副会長: 藤井 健、正木 明 幹事: 平松信昭、諫山安彦、上田博隆、川畑亮人、佐々木緑、鈴木晶子、土井修二、馬越一朗、藤林敏史、山口和弘	支部長: 大平周二 副支部長: 久保田淳 事務局長: 井上 貞 会計: 後藤正則
問い合わせ先	持ち回り制のため、直近の案内を参照	千葉県世話人ML: yohochiba@freeml.com	持ち回り制のため、直近の案内を参照	中原定雄 〒503-0024 大垣市宿地町986-5 TEL:0584-81-1467	上記幹事まで	事務局長 井上 貞 inousesan@ma2.justnet.ne.jp
会員登録者数	56名	13名	13名	140名	18名	18名
例会平均参加者数	20-29人	20-29人	10名未満	10-19名	30-39名	10名未満
設立	1997年4月	1999年9月	1998年6月	1997年8月	1999年11月	1998年4月

名称	気象予報士会四国支部	気象予報士会西部支部	熊本気象予報士会*	鹿児島県気象予報士顔合わせ会	沖縄県気象予報士会(休止中)*	*
対象地域	四国	山口、福岡、佐賀、長崎、熊本県	熊本県	鹿児島県およびその近隣	沖縄県	新潟県
加入資格	気象予報士会会員	特になし	気象予報士	特になし	気象予報士	特になし
主な活動内容	・天気図検討会 ・講演会 ・勉強会 ・施設見学会 ・総会 ・懇親会	・天気図検討会 ・講演会 ・勉強会 ・施設見学会 ・懇親会	・施設見学会 ・懇親会	・施設見学会 ・懇親会	なし	なし
活動周期	3-4カ月に1回	1カ月に1回	なし	3-4カ月に1回	なし	なし
資金調達方法	その都度実費を徴収	その都度実費を徴収 懇親会費の余剰金	なし	その都度実費を徴収	なし	なし
非メール会員への連絡方法	郵送(非メール会員または世話人の登録者)ならびに「の登録者」電話、FAX	なし	なし	なし	なし	なし
ホームページ	なし	http://www3.justnet.ne.jp/hayabusas8823	なし	なし	なし	なし
メーリングリスト	なし	あり	なし	なし	なし	なし
世話人/幹事(敬称略)	一 広志(愛媛) 武村哲夫(高知) 志摩恭臣(徳島) 樋口寛寿(香川) 濱田和雄	弘中秀治 石丸良平	会長: 奥野忠夫 副会長: 佐藤修二、山田徳重 監査: 松澤幹夫	森 雅宇	なし	諸岡雅美
問い合わせ先	濱田和雄(四国支部事務局長) 〒796-8007 愛媛県八幡浜市八代39-5-304 TEL/FAX:0894-29-1376 RXR13772@nifty.com	弘中秀治: hironaka3@city.ube.yamaguchi.p 石丸良平: tetta@mech.kyushu-u.ac.jp	事務局: 奥野忠夫	森 雅宇 鹿児島市田上台3-11-25 TEL/FAX:099-275-4174 moricchi@f2.dion.ne.jp	なし	なし
会員登録者数	約31名	約30名	13名	11名	なし	なし
例会平均参加者数	10-19名	10-19名	10-19名	10名未満	なし	なし
設立	1999年8月	1998年6月	2001年3月	2001年6月	1997年7月	設立準備中

各地方組織世話人・幹事に対するアンケート結果を基に作成した。*印の地方組織については、アンケートの回答が得られなかったため、地方担当幹事に把握している情報を示した。

- 北海道に在住する気象予報士。北海道に在住し、気象予報士になるため継続的に努力している人で、「1.の登録者」1名以上から推薦のあった人。「の登録者」ならびに「の登録者」で北海道から転出された人。「の登録条件」のいずれにも該当しないが、MLHにとって有益と認められ「の登録者」1名以上から推薦のあった人。「の登録者」が一度MLHを退会した後、再度入会を希望する場合には、再度「の登録者」1名以上の推薦を必要とする。(アドレス変更のためなど一時的退会は除外。)
- 気象予報士または気象予報士試験を受験したことがあり、現在も気象予報士を目指している者で本会の主旨に賛同した者。
- 勉強会は月1回、総会、施設見学会は年1回、幹事会は年4回、懇親会は年2-3回。
- 例会は半年に1回、天気図検討会は3カ月に1回、計年6回なので平均して2カ月に1回。
- 予定を含む。
- 現在は気象予報士会会員としていないが予報士以外も視野に入れている(準会員)。
- 法人化、予報許可(独自予報)、講師派遣(学校などを含め)、予報士派遣(予報・観測など)など予報士の活動の場を提供する。
- 小学校への出前授業(楽しいお天気講座)、各種講演会への講師派遣、大阪管区気象台主催お天気フェアへの協力、博物館等でのボランティア解説員

地・方・活・動・日・程

栃木県気象予報士会

1. 実施日：2002年11月10日(日)
12:45集合(時間厳守) 13:00~17:00
2. 実施場所：宇都宮市中央生涯学習センター
宇都宮市中央一丁目1-13
(旧 宇都宮市中央公民館。名前が変わりましたが場所は同じです)
3. 実施内容：第6回栃木県気象予報士会天気図検討会
講師：宇都宮地方気象台の現役予報官
4. 参加費：2,000~3,000円程度
(参加人数により多少変わります)
5. 参加資格：特になし(予報士でなくても可)
6. 内容予定：・実況地上天気図等による現況把握
・数値予報資料等による予報作成等を予定しています。
7. 用意するもの：鉛筆、消しゴム、色鉛筆(赤・青・紫)
(解析図や予想天気図を描く作業に使います)
8. 連絡先：11月9日(土)までに大門まで御連絡下さい。
E-mail daimon@y.email.ne.jp

東京支部 天気図検討会

1. 実施日：2002年11月30日(土) 13:00~17:00
2. 実施場所：東京文化会館(最寄り駅：JR上野駅)
3. 実施内容：第46回天気図検討会
気象庁発表の29日(金)21:00イニシャルの予想天気図、その他の予報資料、実況監視用資料・データを利用して、12月1日(日)の札幌市、東京都心、大阪市、福岡市、那覇市の天気予報を行う予定にしています。

気象予報士会会員なら東京在住・在勤に係わらず参加できますが、事前予約が必要で、定員になり次第締め切ります。

今年度移動幹事会の開催場所を募集

昨年度、開催されなかった移動幹事会を今年度は開催することになりました。開催時期は12~1月を予定しています。

そこで、移動幹事会の開催場所を募集します。現在、地方組織空白域でも構いません。多数のご応募をお待ち申し上げております。

4. 連絡先：E-mail: bym00263@nifty.ne.jp
TEL/FAX: 042-398-0251
氏名・郵便番号・住所・電話番号・E-mailアドレスを明記の上、佐々木恒まで。

静岡県顔合わせ会

1. 実施日：2002年12月7日(土)
2. 実施場所：JR静岡駅近辺
3. 実施内容：初の県庁所在地開催です。盛大な懇親会が中心ですが、見学会も調整中です。
4. 連絡先：川端康夫 TEL:0543-46-6543
kawaba-y@po.across.or.jp

関西気象予報士会

1. 実施日：2002年11月16日(土)
2. 実施場所：島本町ふれあいセンター
(大阪府三島郡島本町)
3. 実施内容：第4回関西気象予報士会総会
特別講演「楽しい気象の実験」
講師：山下晃 大阪教育大学名誉教授
4. 連絡先：平松信昭 E-mail: hiramatu@jwa.or.jp
〒542-0081 大阪市中央区南船場2-3-2-16F
(財)日本気象協会関西支社
気象情報部気象情報課内 藤林敏史 宛

西部支部

1. 実施日：2002年11月16日(土) 14:00~17:00
2. 実施場所：佐賀県で開催予定
3. 実施内容：未定
4. 連絡先：弘中秀治
hironaka3@city.ube.yamaguchi.jp
TEL:090-8999-4903
石丸良平 tetta@mech.kyushu-u.ac.jp

・事務センターより・

年会費納入のお願い

平成14年度も6ヶ月経過しております。年会費を納入されていない会員は同封の郵便振り込み用紙にて至急年会費をお振り込み下さい。振り込み用紙は、平成14年10月20日現在、年会費未納の方に同封しております。ご疑義ある方は事務センターまでお問い合わせ下さい。

ご存じの通り、気象予報士会は会員の年会費でのみ運営されております。気象予報

士会の円滑な運営を行うため会員の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

変更届の提出のお願い

2003年版会員名簿は平成15年1月末~2月上旬に発行を予定しております。この1年間に住所変更などありましたら、変更届を平成14年末までにご提出願います。届け出用紙は会員名簿の巻末に掲載されておりますが、届け出用紙がない方はFAXまたはE-mailにて事務センターまでご請求下さい。

編集後記

てんきすと23号は2003年2月上旬発行予定です。投稿記事の締め切りは2003年1月13日(地方活動日程情報の締め切りは2003年1月20日)を予定しています。引き続き会員の皆様からのご投稿(記事、写真)ご意見をお待ちしております。よろしくお祈りします。旅行が好きでよく飛行機を利用する。もちろん、窓側が指定席である。普段は雄大な積乱雲や雲の発達状況などを楽しむのだが、この季節は、視線をもう少し下に降ろしてみたい。高い山ではすでに所々白くなり、低くなるに従って目映いばかりの紅葉が広がってゆく。そんな、上空からだからこそ楽しめる季節の移ろいが見られるのかも知れない。それらが、ふもとの町に下りてくるのも間もなくであろう。(編集子)

気象予報士会 E-mail:yohohead@mb.infoweb.ne.jp

ホームページ <http://village.infoweb.ne.jp/yoho/>

発行日 2002年11月1日 発行人 石井和子 発行所 気象予報士会◎ 編集協力 (株)第一プランニングセンター